

## 知床国立公園利用適正化検討会議について

### 1. 設置目的

知床国立公園適正利用基本構想（平成 13 年度策定）に基づき、知床国立公園の適切な保護と利用の推進を図るため、学識経験者、関係団体及び関係行政機関により構成する利用適正化検討会議を設置。知床国立公園を、利用のための施設等がなく、特に原始的な環境が残されている「知床半島先端部地区」と、利用の中心的地域である「知床半島中央部地区」の 2 つに分けて、適切な保護と利用のための検討を進めている。

### 2. 検討事項

- (1) 利用適正化基本計画に関する事項
- (2) 利用適正化基本計画の具体化に関する事項
- (3) 利用ルールに関する事項
- (4) その他目的達成のために必要な事項

### 3. これまでの検討状況

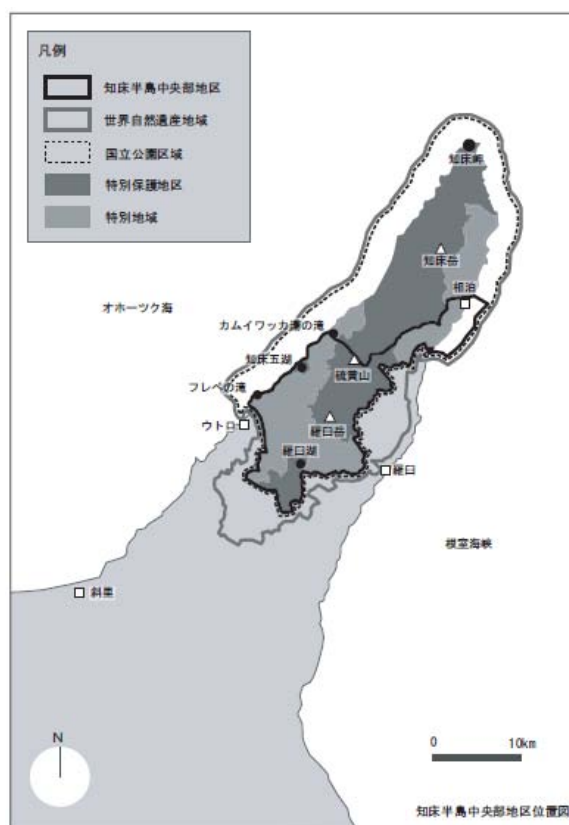
平成 16 年 12 月	「知床半島先端部地区利用適正化基本計画」策定
平成 17 年 9 月	「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」策定
平成 19 年 3 月	「平成 19 年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画」の策定 (以後、毎年策定)
平成 20 年 1 月	「知床半島先端部地区利用の心得」の決定
平成 20 年 7 月	「知床半島中央部地区利用の心得」の決定

### 4. 「知床半島中央部地区利用適正化実施計画」

知床半島中央部地区のうち、利用適正化の観点から優先的に対策の検討が必要な地域（知床五湖地域、羅臼湖地域、知床連山地域、カムイワッカ地域）について、「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」に基づく取組みの具体的推進を図るために、関係機関が実施する各種の対策事項・検討事項を整理するもの。

### 5. 「利用の心得」

「先端部地区」と「中央部地区」それぞれについて、知床の自然を将来にわたって利用するために利用者が守るべきマナーを、利用適正化検討会議で専門家の助言と関係団体の合意を得て定めたもの。



## 6. 構成員

### (1) 検討委員

- ・小川 巖 (エコネットワーク代表)
- ・小林 昭裕 (専修大学北海道短期大学教授)
- ・新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員)
- ・辻井 達一 (財団法人北海道環境財団理事長) 【座長】
- ・中川 元 (知床博物館館長)
- ・中易 紘一 (財団法人 北海道林業会館 理事長)

### (2) 地域関係団体

- ・斜里町環境審議会自然環境部会
- ・ウトロ地域協議会
- ・ウトロ漁業協同組合
- ・知床斜里町観光協会
- ・知床羅臼町観光協会
- ・羅臼町・知床世界自然遺産協議会
- ・羅臼漁業協同組合
- ・知床ガイド協議会
- ・(財)知床財団

### (3) 関係行政機関

- ・北海道森林管理局 (保全調整課)
- ・網走南部森林管理署
- ・根釧東部森林管理署
- ・知床森林センター
- ・釧路開発建設部
- ・網走開発建設部
- ・網走海上保安署
- ・羅臼海上保安署
- ・北海道環境生活部環境局自然環境課
- ・網走支庁地域振興部環境生活課
- ・根室支庁地域振興部環境生活課
- ・釧路土木現業所
- ・網走土木現業所
- ・斜里町
- ・羅臼町
- ・北海道警察北見方面本部
- ・北海道警察釧路方面本部

### (4) 事務局

- ・環境省釧路自然環境事務所・ウトロ自然保護官事務所・羅臼自然保護官事務所

**知床国立公園知床半島中央部地区利用の心得**  
**(中央部地区の利用に当たっての留意事項、禁止事項)**

**[ 3つの柱 ]**

1. 自然環境への配慮
2. ヒグマに対する注意
3. 地域の生活・文化への配慮

**[ 10の約束 ]**

1. 野生動物に食べ物を与えない  
自然の生態系を乱すだけでなく、人に近寄るヒグマを創り出したり、キツネの交通事故を誘発するなど、人と野生動物の双方に不幸な結果をもたらします。
2. 道を外れて歩かない  
歩道や木道から外れて歩き回ると道に迷うなど危険なだけでなく、植物が踏み荒らされたり、土が削られたりします。
3. 動植物をとらない、脅かさない、傷つけない、持ち込まない  
繊細な自然は、小さな行為でも大きな影響を受けます。
4. ゴミは持ち帰る  
景観や野生動物に影響を及ぼし、ヒグマを誘引するおそれもあります。
5. ペットを外に連れて歩かない  
ヒグマを刺激してしまうおそれがあります。
6. 遊歩道上での食べ歩きや野外での調理は行わない  
食べこぼしや食べ物のにおいはヒグマやキツネなどを引き寄せる原因になります。
7. ヒグマに出会わないようにする  
ヒグマに対する私たちの行動次第で、危険な状況になることがあります。出会わないようにすることが一番の安全対策です。
8. ヒグマに近づかない、刺激しない  
自分が危険なだけでなく、人の接近に慣れすぎたヒグマはトラブルを起こすようになってしまう場合があります。
9. 車のスピードは控えめに  
野生動物が飛び出してきました。大きな事故にもつながります。
10. 漁業活動を妨げない  
地域の人々の生活を支えています。

**『登山利用 5つの約束』** (知床連山の登山道利用者を対象に)

1. 事前の計画と準備を万全に  
安全対策や事故防止に関する計画・装備等を十分に検討しましょう。
2. ヒグマ対策を万全に  
知床のヒグマは、人やテントを避けることなく自由に行動しています。他の地域のクマとは異なる心がまえと対応が必要です。あらかじめ最新の情報を入手し、特に野営地(キャンプ地)での食料やゴミの管理には十分に配慮しましょう。
3. 植生等の保護に配慮した行動を  
登山や野営(キャンプ)によって繊細な高山植物に悪影響を与えないよう、行動に十分な配慮をしましょう。
4. 尿尿やゴミの処理を適切に  
携帯トイレの使用に心がけ、ゴミは全て持ち帰り、きれいな環境を保持しましょう。
5. 火の扱いに注意する  
自然環境への悪影響や山火事のおそれがあるため、火の取扱いには十分注意しましょう。